

序 文

富岡製糸場は平成26年、「富岡製糸場と絹産業遺産群」としてユネスコ「世界遺産一覧表」に記載されました。それ以降、日々多くの見学者を迎えており、また、製糸場周辺も観光客にあふれ、おかげさまで街は賑わいを見せております。当市としましては、これを好機と捉え、「富岡製糸場を核としたまちづくり」に取り組んでいるところです。

一方で、富岡製糸場は敷地全体が国指定史跡に、そして合計で9件の建造物が国宝と重要文化財建造物に指定されています。富岡製糸場は日本を代表する近代産業遺産として貴重な文化財であり、同時に世界の宝であるので、大切に守り、後世へ遺し伝えていかなければなりません。

文化財としての保存修理・整備活用事業は、今後、数十年にわたって続く予定です。長く続く事業を成功させるためには、市民はもちろん、多くの人々に富岡製糸場の価値をよく理解していただき、事業の継続に共感していただく必要があります。そのためには、富岡製糸場の歴史的、文化的価値について広く情報発信を続けていかなければなりません。

当市では、平成20年度に富岡製糸場総合研究センターを立ち上げ、富岡製糸場に関する総合的な調査研究を開始しました。文字通り「総合的」に、富岡製糸場に関する様々な側面について、着実に調査活動を続けています。

この度、本年度の調査研究活動の成果の一端を報告書としてまとめました。富岡製糸場の価値と魅力を伝える情報発信の一助となることを祈念して、序文といたします。

平成28年3月

富岡市長 岩井賢太郎